

令和7年度 自己評価表

(学校名) 愛媛県立宇和高等学校
(学校番号) 38

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）				カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）		
1	「大地と共に心を耕せ」の教育理念のもと、たくましさ、優しさ、自然との共生など、人や自然を思いやる豊かな人間性ととも郷土愛を持った生徒を育成します。			1	少人数学習や個別学習を積極的に取り入れ、個に応じた学習支援や進路指導をきめ細かく実施するとともに、グループワークやペアワークなど対話的な協働の学習を重視し、話す力、書く力、聞く力など学びの基本となる力の習得に努めます。	
2	希望進路を実現するための確かな学力やスキルを持った生徒を育成します。			2	これからの社会を主体的に生き抜くために、地域教材等を取り入れた実践的・体験的・探究的な学びを積極的に行います。	
3	自らの主体的な判断に基づき、未来の可能性にチャレンジしようとする行動力や実践力を持った生徒を育成します。			3	ものの見方・考え方を働かせ、学んだ知識を統合し、課題発見・解決能力の育成に力を入れるとともに、成果を発表・表現する機会を積極的に設けます。	
4	自分と向き合い、自分の魅力に気づき、自分の魅力を発信・表現できる生徒を育成します。			4	多様な進路希望に対応するため、資格取得を奨励します。	
5	多様性を認め、相手を尊重し、コミュニケーションによって良好な人間関係を築いていける生徒を育成します。			5	生徒が互いに認め合い尊重する態度の育成を目指し、学校行事や部活動など多様な教育活動を展開します。	
				6	農業の幅広い分野や食品加工技術の実習を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得します（農業）	
				7	4つの専攻班による専門的・探究的な学びにより、知識や技術の幅を広げていきます。（農業）	
領域	評価項目	具体的目標		評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
1 シ ョ ン ポ リ シ ー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーションポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上		A	○「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、77%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、18%が「どちらとも言えない」、3%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	○教育理念の達成のために教職員のみならず地域との協働の中で人格の形成に努めたい。補習や学習時間の在り方、指導法の改善、積極的な挑戦を促すことで、生徒が自分の魅力に気づき、良好な人間関係が構築できるように、さらにグラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
2 学 校 経 営	アイデアを生み出す生徒の育成	○地域人材等の活用により「探究活動」の深化を一層図り、生徒が地域課題に向き合い、当事者意識を持ち、その解決策を提案・実行できる力を養うことで地元愛を醸成する。生徒が「探究」による成長を実感できる活動を目指す。 （A:充実度100% B:～80% C:～60% D:～40% E:40%未満）		A	○探究活動の意義やプロセスの理解を図り、基礎的なスキルを習得させるために、地域や企業と連携し、探究活動を充実させた。 ○2年生は地域、企業、専門機関等と連携し、体験的な探究活動を行い、その成果を地域で発表したり、愛大社会共創コンテスト、愛媛地域づくりアワードに応募し、入賞を果たした。 ○総合的な探究の時間の充実度（肯定的評価）は、進路探究を実践した3年生が最も高く（85%）、2年生（78%）よりも1年生（81%）の方が高い評価が表れた。また、数値がやや下降した。	○さらに「探究活動」の深化を図り、課題解決能力を高める実践を計画的に行う。そのために学年団をはじめ、全教職員との共通理解を図りたい。 ○探究活動への協力体制を継続・強化するため、外部講師等をコンソーシアムとして組織化することを検討し、持続可能な探究協力体制の構築を目指す。 ○教科「産業社会と人間」において、地域課題を例に、先行的に探究活動の意義やプロセスの理解を図る。
	安心・安全な学校づくり	○実態に即した各種の防災避難訓練や危機管理訓練を通して、危機管理意識を高め、備えの重要性を認識させるとともに、「危機管理マニュアル」を実態に即して見直し、非常時の対処方法を徹底する。 （A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:0回） ※工夫なき通常訓練のみの場合は評価を1ランク下げる。		B	○無通告避難訓練を含めて3回の避難訓練を実施し、原子力防災訓練では家庭クラブ役員の生徒が説明するなど、生徒自身の災害に対する意識を高めた。 ○危機管理マニュアルの見直しを行っている。	○危機管理マニュアルの見直しは今年度中に完成する予定で、各教職員に周知し、役割分担や手順について習熟する必要がある。また、総合学科スタートに合わせて新しい施設もできるため、管理責任についても周知する。
		○情報セキュリティ研修の充実を図り、情報漏えい等に対する意識の高揚を図り、個人情報漏えい等の未然防止対策を徹底する。 （A:参加率150%以上 B:～100% C:～90% D:～80% E:80%未満）		B	○教職員に対する情報セキュリティ研修を次の通り実施した。4月3日（木）11名、6月16日（月）55名、参加率120%	○研修の内容の充実を図り、情報漏洩発生が多い月（4月・10月）に再度確認し、情報漏えい等に対する意識の高揚を図りたい。
	情報発信・広報活動の強化と教育活動の公開	○ホームページやSNS等の情報発信の充実や、生徒・保護者・地域への広報活動を強化し、新学科に向けての理解を求めるとともに、中学校や関係施設への積極的な訪問活動を実施する。 （A:訪問70回以上 B:～60回 C:～50回 D:～40回 E:40回未満）		A	○広報活動として南予の中学校35校と9つの市教委を6回訪問した。また、学校説明会をPTA総会や各学校行事で行い、宇和島市のPTA研修会にも参加するなど、年間を通して積極的に活動した。ホームページやインスタも閲覧数が大幅に増加した。	○積極的な情報発信や広報活動の成果が出たと考えているが、魅力化コーディネーターが活動が終了するので閲覧数が増えているSNSの発信を継続できるように整えることが必要。
	職員の資質向上	○教職に対する情熱や確かな教科指導、高い人間力を養うために校内外の研修や自己分析と改善、情報収集、そして多様な専門性を持つ人材との連携を強化する。（学校評価アンケート（教員用）にて評価 （A:実施満足度90% B:～80% C:～60% D:～40% E:40%未満）		C	○十分な時間をかけての教材研究や教科の指導工夫については、若干の下降であった。教職員間の共通理解や情報共有の面では、管理職との連絡調整が不十分な点が見受けられる。	○職員の多忙感を改善するために、業務改善の更なる工夫を行う。情熱をもって取り組める職員が多いので、協力体制や相談しやすい環境を整え業務負担軽減に取り組む。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	(1) 家庭学習の充実	○家庭と連携し適切な課題を設定することにより、1日の家庭学習時間2時間以上を確保させ学習習慣の定着を図る。 (A:2時間以上 B:～90分 C:～60分 D:～30分 E:30分未満)	B	○10月に実施した「生徒による授業評価」の中の「予習復習をしている」という項目において、昨年度と同様に24.5%の生徒が低い自己評価をしている。(R6:24.5%) ○家庭学習時間の確保に努めているが、家庭学習時間2時間以上の割合は、73.2%であった。継続して、課題設定を考慮する必要がある。 (R6:86.3%)	○授業評価の結果について、各教科で検討するとともに、学習意欲の向上と家庭学習時間確保のため、各教科における課題内容を改善する。 ○生徒の進路希望を把握し、学習に対する意識向上を図り、適切な質と量の課題を課して進路実現へつなげたい。
	(2) 教科指導の充実	○魅力的な授業で生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学ぶ態度を育成するとともに、生徒各自の健康管理を促し、皆勤率を向上させる。(学校での授業を大切に指導) _ (A:皆勤率65%以上 B:～55% C:～45% D:～35% E:35%未満) _	C	○授業態度もよく、積極的に学習に向かう姿勢が見受けられる。 ○感染対策として、引き続き、発熱等における通院であれば出席停止(公欠)としており、皆勤率が少しづつではあるが上がってきている。 (2学期末54.8%)	○継続して、授業内容を工夫し、主体的に学ぶ態度の育成に努める。 ○計画する学校行事等は、生徒主体で実施し、楽しい学校生活を送らせたい。継続して、生徒に健康管理を促し、皆勤率を向上させたい。
	(3) 読書指導の充実	○生徒の興味・関心を尊重して読書意欲の向上を図り、生徒の言語活動を充実させるとともに、朝読書週間を活用して朝読書の定着を図り、図書貸出冊数年間1人10冊以上を目指す。 (A:10冊以上 B:～7冊 C:～4冊 D:～1冊 E:0冊)	C	○1月末日までの1人あたりの図書貸出冊数は3.5冊であった。昨年度は7冊である。今年度は図書管理システムを導入し図書貸出をデジタル管理する準備を行った。その過程で、蔵書の整理・廃棄処分を行わなければならない、図書館の開館に制限があったことも影響したと思われる。	○図書館整備支援事業により、県立図書館の職員の方に2回来校してご助言いただいた。その内容を館内のレイアウトの変更や、蔵書整理等に生かし、生徒にとって利用しやすい図書館づくりを目指したい。
	(4) 資格取得の奨励	○各種検定に対する受験意欲の喚起を行うとともに、補習等を充実させ、検定試験合格者数延べ150人以上を目指す。(漢検、英検、全商、家庭) _ (A:150人以上 B:～130人 C:～110人 D:～90人 E:90人未満) _	A	○保育技術検定 2級6名 3級12名 ○被服製作技術検定 2級5名 3級7名 ○食物調理技術検定 3級47名 2級2名 ○漢字検定 準2級1名、3級4名 ○英語検定 2級1名 準2級8名 3級2名 ○全商検定各種 1級29名 2級50名 3級55名 計229名	○昨年より67名の合格者を増やすことができた。引き続き、資格取得である各種検定に対する受験意欲の喚起を行うとともに、補習等を充実させ、各種検定試験の合格者数を増やしたい。
生徒指導	(1) 多様性を認め合う生徒の育成	○多様性を認め、自他を尊重する態度を育て、 <u>学校評価アンケート関係項目の100%を目指す。</u> 「学校評価アンケート」で評価 (A:100% B:～80% C:～60% D:～40% E:40%未満)	B	○「命の大切さや健康や安全に関する指導がよく行われていますか。」の間の結果が、行われていると答えた生徒が85%であった。	○校則の遵守、学校行事などすべての学校生活を通して、自他を尊重する態度を育てたい。
	(2) 行動力を育む人権教育の充実	○自他の人権を守るための行動力をはぐくむ人権教育の推進に努め、 <u>多様性を認め合う態度を育成する。</u> 「人権に関するアンケート」で評価 (A:100% B:～80% C:～60% D:～40% E:40%未満)	B	○「学校の人権・同和教育を通して、あなたの人権意識は高まっていると思いますか。」の間の結果が、行われていると答えた生徒が85%であった。	○SNSでの誹謗中傷やいじめの未然防止を啓発する中で、自他の人権を守るための行動力を育む人権教育の推進に努めたい。
	(3) 教育相談・特別支援教育体制の充実	○全校一斉面談や教育相談等を充実させるとともに、家庭と連携して問題を早期に発見できる体制づくりに努め、生徒の学校充実度の向上を目指す。 <u>必要に応じて専門機関と連携して、生徒や保護者の支援をする。</u> 「高校生活悩みの調査」で評価 (A:100% B:～80% C:～60% D:～40% E:40%未満)	B	○生徒の部活動充実度・人間関係度は80%以上と高い傾向。1年生では学習充実度が76%で少し低めである。1・2年生は進路順調度が63%で低調だが、3年生は90%で進路実現させた生徒がほとんどである。1・2年生の進路の悩みや不安を軽減させる必要がある。	○クラスや学年における面談を定期的に実施し、相談体制を整える。家庭とも連携して問題の早期発見を心掛け、時にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、問題の早期解決に努める。
進路指導	(1) 進路指導の充実	○進学及び就職希望者への小論文(作文)及び面接の個別指導を充実させ、進学・就職率を100%を目指す。 (A:100% B:～90% C:～80% D:～70% E:70%未満)	C	○進学及び就職希望者に対して、全教職員体制で生徒個々に応じた小論文(作文)及び面接の個別指導を実施した。進学・就職内定率は、89.1%(1月31日現在)となっている。	○進学及び就職希望者に対して、全教職員体制での面接等の個別指導を今年度同様に計画的に実施する。また、生徒の取り掛かりを早くできるよう呼びかけを行う。
	(2) 進学指導の充実	○国公立及び難関私立大学の合格者数15人以上を目指す。 _ (A:15人以上 B:～12人 C:～9人 D:～6人 E:6人未満) _	C	○全教職員の協力のもと、総合型選抜及び学校推薦型選抜の受験指導がなされ、国公立大学合格者10名(1月31日現在)となっている。現在は一般入試合格に向け、個別指導を行っている。	○教員全体での情報共有・意思統一を図り、連絡・相談を一層密にし、早期からの進路選択に係る取組を生徒に促す。
	(3) 就職指導の充実	○綿密な就職指導を行い、生徒一人につき面接練習を10回以上行うことで自信を深めさせる。 (A:10回以上 B:9回 C:8回 D:7回 E:7回未満)	B	○8月下旬から9月上旬にかけて、1人10回の面接練習を計画し、多くの先生方に協力していただき、平均8.8回という結果であった。また、担任との面接も全員が1回は実施しており、平均9.8となった。	○今年度は面接指導の日数が10日しか確保しておらず、10回に満たない生徒がいたため、計画段階から日数を確保したい。また、担任との面接練習の回数を2回程度実施してもらう。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	(1) 部活動の競技力向上	○県大会出場者数100人以上を目指し、四国大会以上の出場を果たせる部活動を目指す。 (A:県大会出場100人以上 B:～80人 C:～60人 D:～40人 E:40人未満)	A	○110名が県総体出場を果たした。 ○陸上競技部が全国大会出場、社会体育・文化部（水泳）が四国大会出場を果たした。	○来年度より、総体地区予選が廃止される。より高い目標を掲げることで充実した活動を行い、勢いのある部活動からの良い刺激を受けて、意識高く活動できる部活動を目指す。
	(2) 部活動指導の充実	○部活動指導員、外部指導者、サポート顧問の活用により、部活動指導の充実を図る。 (A:活用部数10部以上 B:～8部 C:～6部 D:～4部 E:4部未満)	B	○部活動指導員1部、外部指導者3部、サポート顧問4部が活用し、部活動の充実を図った。	○専門性のある人材を活用したり、校内でのサポートを受けたりすることで、充実した活動につながるよう努める。
	(3) 地域に貢献する活動の充実	○地域や行政、市内の県立学校や幼・小・中との連携を深め、地域イベントやボランティア活動、交流活動等に生徒が積極的に参加し、地域に貢献する学校を目指す。 (A:参加者250人以上 B:～220人 C:～180人 D:～150人 E:150人未満)	A	○「西予市議会と高校生の意見交換会」「宇和中学校秋輝祭」等に参加 ○生物工学科を中心に、地域との交流活動を行うことが定着している。 ○家庭クラブやVYS部が中心となり、地域イベントのボランティア活動 ○2年生の地域交流活動を実施（12月）	○地域との交流活動は大変盛んに行われており、地域からの期待の声も聞かれる。学校活動との両立を図るため、綿密な計画が必要である。
	(4) クラブ活動の充実	○農業クラブ等における各種発表・競技のレベルアップを図り、県大会出場者数12人以上を目指す。 (A:12人以上 B:～9人 C:～5人 D:～2人 E:2人未満)	A	○各種発表・競技の県大会に19名の生徒が出場した。 ○フラワーデザイン競技の部において優秀賞を受賞し、産業教育フェア全国大会に出場することができた。	○一部の生徒だけではなく、全クラブ員に高い目的意識を持たせて、取り組ませたい。 ○来年度は総合学科への改編により、2年次での入会となるため新入生に農業クラブ活動をアピールしていきたい。
業務改善	(1) 業務の効率化	○ICT機器の利用促進やEILSの活用、教育業務支援員やスクール・サポート・スタッフ、サポート顧問等との連携強化により職員の業務軽減を図り、ゆとりある業務体制の構築を目指す。 「学校評価アンケート（教職員）」で評価 (A:80% B:～70% C:～60% D:～50% E:50%未満)	C	○ICTの活用では、テスト自動採点システムEILS-PBT（百問繚乱）を多くの教職員が活用し、採点業務、評価等の集計業務の効率化が図られた。 ○スクール・サポート・スタッフの活用が日常化し、教員の業務負担の軽減が図られたと感じているが、評価値は低いままである。	○テスト自動採点システムEILS-PBT（百問繚乱）をはじめICT機器の更なる活用やを学校全体の取組として進める。 ○校務分掌や部活動指導体制の工夫を行い、業務負担の軽減につながる体制を構築していきたい。
	(2) 職場環境の整備	○教職員に対する管理職面談や教育相談等、積極的な実施により、職場環境等の改善と健康管理に努める。 (A:面談回数4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:未実施)	C	○依然として教職員の多忙感は払拭されないが、教職員間の積極的なコミュニケーションにより、風通しの良い職場風土が築かれつつある。 ○管理職面談については、十分な面談機会を確保できなかったが、衛生委員会等で校医の先生に意見を伺いながら、教職員の健康管理については共有できたと思う。	○多忙な業務が健康面に悪影響を及ぼさないように相談しやすい雰囲気と人間関係を構築する○面談機会の確保に努め、教職員の健康面、ストレスの状況、業務の遂行状況や業務負担など、課題を早期に発見できるよう取り組む。

評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。